

地域自立支援協議会 会議要録

会議名:白井市地域自立支援協議会委嘱状交付 及び 令和5年度第1回地域自立支援協議会全体会

日時:令和5年5月25日(木)

場所:団体活動室1・2

出席者:林会長、鈴木(一)副会長、飯ヶ谷委員、大網委員、高橋(里)委員、高橋(祐)委員、石川委員、森田委員、橋本委員、熊崎委員代理福田氏、中山委員、横尾委員、染谷委員、古市委員、村田委員、川上委員、村松委員、秋本委員、松島委員(19名)(以下、敬称略)、事務局(鈴木(智)課長、山本、伊藤、高橋(友))

欠席者:高橋(奈)委員、上野委員、

傍聴者:1名

資料:会議次第

- | | |
|-----|---------------------------|
| 資料1 | 白井市地域自立支援協議会設置要綱 |
| 資料2 | 白井市地域自立支援協議会委員名簿 |
| 資料3 | 令和5年度 地域自立支援協議会 年間予定(案) |
| 資料4 | 地域生活支援拠点に関する報告書 |
| 資料5 | 第7期障害福祉計画等に係るアンケート調査結果速報版 |

議題:

- (1) 白井市地域自立支援協議会について(年間予定・要綱改正)(資料123)
- (2) 令和5年度部会の活動について
- (3) 地域生活支援拠点の令和4年度活動報告及び令和5年度計画について(資料4)
- (4) 第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に係るアンケート調査結果について(資料5)
- (5) その他

内容:

【委嘱状交付式】

変更等委員委嘱 交付

【白井市地域自立支援協議会会議】

会長挨拶

街中に人が増えた。行動を抑制されていた人が多くいたと感じる。5類になり、福祉事業所には、様々な公的な支援がなくなる。しかし、コロナはインフルエンザとは違う感染力。これからこそ各事業所の体力勝負、法人の力が試される。皆様の力と知恵をいただきながら、良い福祉を作っていっていただければと思う。

委員自己紹介

飯ヶ谷:座ぐり。年間900件くらい。相談は増えている。相談支援専門員の確保は課題。

大網:にこにこ相談室。介護でも話しているが、障がいでも人材不足と質の向上が課題。白井で良かったと思ってもらえる地域づくりをしたい。様々な専門の人がいるので連携・協力していきたい。

高橋(里):ケアプラン優楽里。介護保険と障がいのプラン。障がいについてはこれから勉強していく。

高橋(祐):就労継続支援 B 型みのり。皆さんと情報共有し、就労部会を進めていきたい。

石川:就労継続支援 B 型ぽけっと。生活訓練の事業所と合併した。登録メンバーが23名。数年前からメンバーがあまり変わらない。新しい事業を考えている。

森田:就労移行支援明朗アカデミー。交通費の問題などの問題もあり、送迎を始めた。

橋本:成田地域生活支援センター。「にも包括」の圏域コーディネーターを受けている。5類になり、新たな形での地活運営と、圏域のコーディネーターとして精神障害者の地域生活を推進したい。

松島:中核すけっと。2年ぶりに戻ってきた。法人としては、中核で19年目。

秋本:社会福祉協議会。個別支援グループ。日常生活支援事業の金銭管理。成年後見。相談が増えており、待機者がある。様々な理由で、金銭管理がうまくいかなくなっている方の思いを組みながら支援したい。

村松:しらゆりの会。会員高齢化。障がいの重たい子どもでも地域で生活出来ている人もいて、地域支援のおかげだと思っている。

川上:手をつなぐ育成会。保護者も高齢化。子どもが50歳くらいになっている。困りごとは、そこまで上がってきていない。若い人はどう考えているかと思うが、今回資料のアンケートを見てもそんなにない。相談支援はじめ、事業所が増えてきたからだろうと思う。10月に、きょうだい間の関係についての講演会を予定。

村田:障害者就業・生活支援センター(以下、なかぼつ)明朗塾。7市2町。労働局からの委託。ハローワークや他の支援機関と連携している。

古市:ハローワーク。地域によって事情が違う。地域に沿った支援をしたい。

染谷:工業団地。260-300社のうち230社が所属。

横尾:教育支援課。個別支援学級の児は増加。

中山:松戸特支。昨年度着任した。関係機関と連携をしていきたい。

林:白井市では、基幹相談が未設置。法人では拠点の事業あり。千葉市が放デイが非常に多い。営業利益を考えるだけでなく、地域でつながっているため、紹介しあえたりしている。白井市でも、研修や交流の場も含め、行っていきたい。現場の人たちの集まれる場や顔の見える関係をつくって行きたい思いがある。／若い障がい者の保護者は、育成会などに入っていないため、困っていることが見えづらくなる傾向がある。

鈴木(一):レ・アーリ相談支援事業所。訪問看護が松戸と白井と船橋。GHが五香と白井。日々バタバタしている。体調が悪くなる方が最近続いている。

議題(1) 白井市地域自立支援協議会について(年間予定)(資料1、2、3)

伊藤:資料に基づき説明。

橋本:「にも包括」について、1回から2回くらいとの説明だったが、白井市の実施した包括ケアが優れていると言われている。病院にアンケートを行ったり、多くの病院を呼んだり、先進的であるため、ぜひ今後も積極的に実施していただきたい。

▶承認

議題(2) 令和5年度部会の活動について 各部長より説明

飯ヶ谷:副部長は川上委員。基幹相談の整備が一番大事と思っている。県北部で未設置は白井くらい。早急に整備が必要。「にも包括」は2回行いたい。県の相談員研修の現地研修も行う。こどもWGは昨年度は医ケアについてが中心だった。その他のことが協議できていないため、取り組みたい。両WG共に困難事例の検

討を実施している。

高橋(祐):昨年度は各機関の情報交換を積極的に行った。また出張相談を実施。今年度もその時々課題を協議していく。市内事業所の定員についても、満員になることが予想されていて、長い目で定員管理をする必要がある。就職応援フェアの開催も考えたい。

松島:基幹の設置の議論をしていることと、障害福祉計画も進めているとのことで、スケジュールは。

鈴木(智):基幹相談。障がい者がこれからも増えていくということで、相談支援を充実させたい。令和6年度~8年度のどのタイミングで基幹を作るかを障害福祉計画に記載する。いつ、どのような形で作るか等、大まかなところは今年度の上半期で決める。詳細は今後、内部で決定していく。計画の素案を出すときに、再度皆様の意見を聞く機会があるかと思う。

林:先に作った他市の基幹の好事例等も参考にできればよいと思う。

林:こどもWG。医ケア以外の課題は整理できているか。

飯ヶ谷:WGとしては、課題が整理できていない。若い母の相談の場所がなかったり、ピアサポートの場がないと感じている。WGの回数が少ない。もう何回か回数を実施することが必要かと考えている。

鈴木(一):昨年度から実施している、児童の情報共有システムがどうなっているか。おおむねよかったということか。者に広げる方針はあるか。

鈴木(智):昨年度の後半に各事業所や病院や学校に働きかけ、協力いただいた。児のみで、者へも広げるかは検討中。相談支援専門員と、事業所や学校等を繋いで、頻繁に情報交換できている。ほとんどの保護者が同意して下さっている。導入をしている医療と学校とつながれているため、頻繁に情報交換されている事例もあり、導入の効果はあったと考えている。特に、医ケア児に関しては効果が高いと考えている。また、災害時に利用ができないかと考えている。WGでは報告しておらず、してもよかったかと思った。/障がい児の課題については、次に紹介する障害福祉計画等のアンケートで通所支援を利用している全員へアンケートを行っているので、こどもWGでもご紹介できればと思う。

▶承認

議題(3) 地域生活支援拠点の令和4年度活動報告及び令和5年度計画について

飯ヶ谷:地域生活支援拠点について。資料4に基づき説明。

- ・当法人でも、クラスターが起きた中での活動だった。緊急受電は月数件。緊急出動はなかった。
- ・他県からの電話もあった。
- ・相談連絡会を立ち上げ、横の連携の強化。一人事業所が多く、つぶれてしまう事業所がないように、野中式などを実施した。
- ・体験の機会については、短期入所の利用が月数名あった
- ・今後は他の事業所の短期入所も含め推進していきたい。

鈴木(一):相談連絡会。拠点の業務として立ち上げたのか。

飯ヶ谷:白井市は面的整備なので、地域生活支援拠点を担う座ぐりとして実施した。

鈴木(一):自立支援協議会として、スーパーバイズを行うのか。

飯ヶ谷:座ぐりとして。

鈴木(一):望まないGHからの移行を促進するとあり、そこだけ非常に具体的だが、どういう意味か。

飯ヶ谷:もしあるのであれば移行を促進したい。

議題(4) アンケートの調査結果速報版

山本:資料に基づき説明。今後は、報告書として作成し、皆様への配布とHPへの掲示をしたい。

高橋(祐):事業者調査で、支援者の資質の向上が必要と出ていた。自立協で今年度実施する研修をきちんと行って広めていきたい。

森田:アンケート項目についてどのように決めたのか。自由記載はあるか。

山本:計画の策定委員会で確認し、内容は決定している。自由記載もある。

鈴木(智):今回の計画から、コンサルへの委託をせずに、職員で考えて実施した。項目は職員全員で内容を精査して、策定委員会にかけた。

鈴木(一):抽出された人数はどのような根拠か。

山本:手帳所持者の4割程度を無作為抽出。障がい児についてはサービス利用者の全数を聞いた。

鈴木(智)他自治体も無作為抽出で実施してる。障害者計画を実施するとすると、来年度再度アンケートとなる。全数アンケートを実施すると、回答する人の負担も考え4割程度に決定した。

林:障がい児、通院・通所に困っているという項目は、通院と通所で分けたほうがよかった。通院は子どもであれば、障がいのあるなしに関わらず、保護者の責任で実施する機会が多いかと思われる。

以上